



ICOMOS Japan
c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
3-26-8-4F Kanda Ogawamachi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0052, Japan.
Tel&Fax: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

2024年12月19日

北九州市長
北九州市議会議長
北九州市教育委員会教育長

武内和久 様
田仲常郎 様
田島裕美 様

一般社団法人日本イコモス国内委員会
委員長 岡田保良
〒101-0052
東京都千代田区神田小川町 3-26-8
神田小川町三丁目ビル 4F
文化財保存計画協会気付
Tel. 03-3261-5303
E-mail. jpicomos@japan-icomos.org

イコモス (ICOMOS) 会長テレサ・パトリシオ博士の声明文『北九州市門司区「初代門司駅」遺構
複合の解体工事に対する強い非難と改めての遺産価値保全の訴え』の送付について

標記の件について、イコモス (ICOMOS) 会長テレサ・パトリシオ博士から関係各位に向けて別添
の通り声明文が発せられ、日本イコモス国内委員会あてに送付されましたので、邦訳文と合わせ、関係各位
宛お送りいたします。ご査収のうえ、趣旨にご配慮を賜れば幸甚に存じます。

なお、こちらの声明文に関するお問い合わせは、担当 溝口孝司 (九州大学教授) (Email:
mizog@scs.kyushu-u.ac.jp) へ直接お願い申し上げます。

記

- 1 提出書類
別添のとおり、パトリシオ博士声明文、声明文日本語訳、各1通

以上。



ICOMOS Japan
c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
3-26-8-4F Kanda Ogawamachi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0052, Japan.
Tel&Fax: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

ICOMOS

2024年12月18日、パリ

北九州市長 武内和久 様
北九州市議会議長 田仲常郎 様
北九州市教育委員会教育長 田島裕美 様

件名：北九州市門司区「初代門司駅」遺構複合の解体工事に対する強い非難と改めての遺産価値保全の訴え

関係者の皆様

国際記念物遺跡会議（ICOMOS）会長として、北九州市にある初代門司駅遺構の取り壊しが開始されたとの報道を受け、最大限の緊急性をもって、そして何よりも深い懸念と遺憾の意を込めて、改めて皆様にお便りいたします。

初代門司駅遺構は、明治時代の日本の変革的近代化を体現する、日本国にとっての重要性に加えて国際的にも認められた文化遺産であります。鉄道と港湾のインフラがユニークに統合され、和洋折衷のハイブリッドな建築工学的技術の組み合わせは、この遺跡の遺産価値の重要性を裏書き高めております。これらの遺構群は、日本の歴史の証であるだけでなく、世界的な交流と技術革新の象徴でもあります。

私たちは、2024年9月にICOMOSが発行した遺産アラートが、皆様にこの遺跡のかけがえのない価値への注意を喚起し、その保存を促したにもかかわらず、この遺跡の取り壊しが開始されたことを知り、深く落胆しております。現地での限定的な保存と部分的な移転を含む現在の保存計画では、遺跡の歴史的・文化的意義を規定体現する本遺跡の中核的要素を適切に保護することができません。

初代門司駅舎の基礎構造物や、埋め立て地と自然地形との間の重要な境界線に関連する遺構など、本遺跡の中核的遺産価値の構成要素が破壊の危機に瀕しております。これらの要素が失われれば、遺跡の真正性と完全性が不可逆的に損なわれ、遺産としての価値は大きく損なわれることとなります。

ICOMOSは、取り壊し作業の開始を強く非難し、北九州市当局に緊急に下記を要請いたします：



1. 解体工事を直ちに中止すること

不可逆的な損害の拡大を防ぐため、現場でのすべての解体・建設作業を中止すること。

2. 保存方策の再評価を行うこと

日本イコモス国内委員会、地元専門家、市民、関係者と包括的かつ透明性のある対話を行い、遺跡の中核的遺産価値を保護する包括的な保存計画を策定すること。

3. 現地保存を優先すること

特に駅舎の基礎構造や、埋め立てられた地形と自然の地形との境界線付近の遺構群など、遺跡の真正性と完全性を体現する要素を保存することに注力すること。

私たちは、北九州市当局に対し、初代門司駅の残された重要な構成要素が確実に保存されるよう、日本イコモス国内委員会、地元専門家、市民、関連する利害関係者と協力するよう、改めて強く要請いたします。ICOMOS は、国際的な専門知識を提供し、保存の呼びかけを強化するためのアドボカシー活動を行うことで、こうした取り組みにおいて日本イコモス国内委員会を支援する用意があります。

初代門司駅遺構は、単に地元の宝というだけでなく、世界的共有遺産の不可欠な一部を形成しております。その破壊は、日本にとってだけでなく、国際社会全体にとっても大きな損失であります。

したがって私たちは、北九州市当局が自らの行動を再考し、日本イコモス国内委員会や国際文化遺産コミュニティと協力して、この特別な遺跡に現在も残されている遺構につき保存するよう強く求めるものであります。

私たちは、すべての文化遺産関連団体、専門家、そして関心を寄せる市民の皆様に、その遺産が未来の世代へと受け継がれることを確かなものとするため、初代門司駅遺構の保存を訴える活動に共に取り組むよう呼びかけます。

敬具

テレサ・パトリシオ
ICOMOS 会長